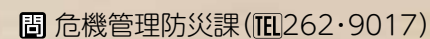


災害はいつ起こるか分かりません。いざというときには適切な行動をとり正確な情報入手することが、自分や家族の命、生活を守ることに繋がります。そのため、日頃の備えが必要不可欠です。



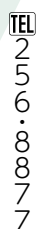
市では、災害時などに防災行政無線で避難情報などを放送します。放送が聞き取りづらい場合などは、次の方法で放送内容を確認できます。

市のメール配信サービス（Ｆメール）で放送内容を配信しています。なお、受信には事前登録が必要です。



テレビ埼玉・NHKのデータ放送で放送内容を確認できます。各局の視聴中にリモコンのdボタンを押してください。

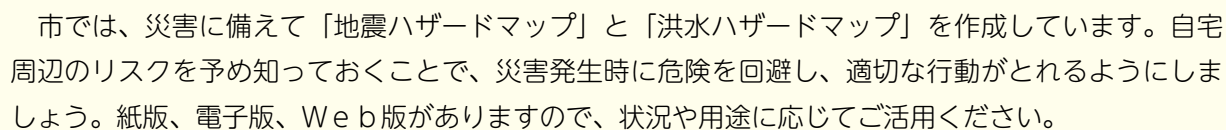
防災行政無線自動応答サービスで、放送内容を、音声で確認できます（通話料有料）。



●その他

市ホームページや公式 SNS（ツイッター、フェイスブック、LINE）でも情報を発信します。SNS は事前に友達登録やフォローをお願いします。

※詳しくは、市ホームページ（QRコード）をご覧ください。



「建物倒壊危険度」「揺れやすさ」「液状化危険度」を記載しています。東京湾北部地震と関東平野北西縁断層帯地震を想定したマップです。



荒川と新河岸川の大雨による堤防決壊を想定したマップです。予想浸水状況や避難方法などの情報もあります。



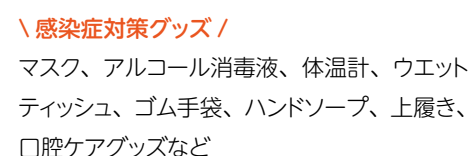
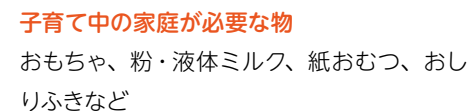
地震・洪水ハザードマップの避難経路をアニメーションで表示したり、複数の想定を比較したりできます。色覚バリアフリーに対応したマップもあります。



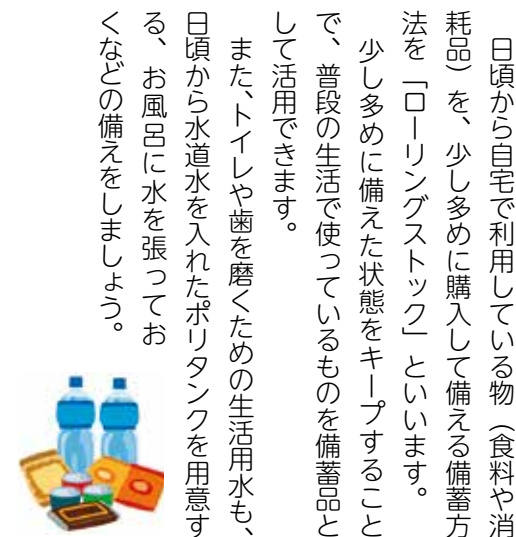
災害時、必要になるものは一人一人異なります。
ご家庭で話し合い、家族一人一人に必要なものを「1
週間分」を目安に備蓄しましょう。



飲料水（1人1日3ℓ）、ビニール袋、ごはん（アルファ米、レトルトなど）、救急箱、缶詰、カセットコンロ、菓子類、マッチ・ろうそく、調味料、トイレトーパー・ティッシュ、常備薬、簡易トイレなど



県では、災害への備えを「イツモ」の生活の中で取り組むことを推進しています。詳しくは県ホームページ(QRコード)をご覧ください。



家具への工夫

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの人が倒れてきた家具によって亡くなったたり、大けがをしたりしました。

また、散乱した家具や生活用品などは、避難の妨げとなり、逃げ遅れにつながります。寝室や子ども部屋には家具を置かない、家具は壁や天井に固定する、食器などの飛散を防ぐドアロックをかけるなどの工夫をしましょう。

「家具は必ず倒れるもの」と考えた、転倒防止対策が大切です。

自分に合った避難を考える

在宅避難

災害が発生してライフラインが停止したとしても、倒壊や浸水などの危険がなく、住み続けられる場合は「在宅避難」を検討しましょう。避難所は人があふれていたり、慣れない環境で体調を崩したりすることがあります。

分散避難

避難場所を分散させるため、安全な場所に住んでいる親戚や知人など頼れる人がいれば、そこに避難することも考えてください。

避難所への避難

自宅が危険な場所にある場合は、市が開設する避難所へ避難しましょう。市では主に、小・中学校を地域の避難所として指定しています。市ホームページ(QRコード)には防災マップを掲載しています。自分の行動範囲にある避難所を、改めて確認しましょう。



地震と風水害では避難所が異なります

市では、水害時の指定避難所を別に設定しています。水害時の避難所は洪水ハザードマップから確認できます。地震の時とは避難先が異なりますのでご注意ください。
※水害時の避難所に設定されている上福岡公民館は、改修工事のため、フクトピアを代替施設としています。(令和3年3月まで)

避難情報が発令されたら

市や気象庁などから発表される情報を直感的に理解しやすくなるよう、5段階の警戒レベルを明記して防災情報を提供します。警戒レベルに応じて、避難のタイミングと、とるべき行動を、改めて家族で相談しておきましょう。

警戒レベル	市民の皆さんがとるべき行動	避難情報	警戒レベル相当の防災気象情報
警戒レベル 5	命を守るための最善の行動をとる ※すでに災害が発生している。	災害発生情報 (市が発令)	氾濫発生情報、大雨特別警報など
警戒レベル 4	全員 避難	避難勧告・避難指示(緊急) (市が発令)	氾濫危険情報、洪水警報の危険度分布(非常に危険)など
警戒レベル 3	高齢者 障がい者 乳幼児 などと その支援者は避難、他の人は準備	避難準備・高齢者等避難開始 (市が発令)	氾濫警戒情報、洪水警報、洪水警報の危険度分布(警戒)など
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップなどで 自らの避難行動を確認	洪水注意報・大雨注意報 (気象庁が発表)	氾濫注意情報、洪水警報の危険度分布(注意)など
警戒レベル 1	防災気象情報などの最新情報に注意するなど、 災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁が発表)	※防災気象情報は、国土交通省・気象庁・都道府県が発表します。

※身の危険を感じたときは警戒レベルに関わらず避難してください。 ※必ずしも段階的に、レベル1から発令されるとは限りません。

避難所と新型コロナウイルス感染症対策

避難所に入所するとき

①手指の消毒



②体温チェック



③「避難者受付カード」と「健康管理チェックシート」の記入

見本は市ホームページから見る
ことができます。



避難所に入所したら…

①こまめな手洗いと咳エチケット

ドアノブや手すりなどから、自分の手にもウイルスが付着する可能性があります。こまめに石鹸で手を洗い、アルコール消毒をしましょう。洗っていない手で顔などを触らないようにしてください。
また、感染を他者に広めないために、咳・くしゃみをするときは、マスクやティッシュ・ハンカチ、肘の内側などを使って、口や鼻を押さえましょう。

②避難者同士の間隔を確保

感染経路の中心は飛沫感染および接触感染です。互いに手を伸ばしたら届く距離(およそ2m)以内の近い接触が一定時間以上、多くの人との間で交わされる環境は感染リスクが高まります。
グループごとで距離をとり「密」を避ける工夫をしましょう。

③ごみの口を縛る

ウイルスの付着している可能性のあるゴミは、各自ビニール袋に入れて口を縛った上で捨てることで、ウイルスの飛散を抑えることができます。

④清掃や換気

密閉空間(換気の悪い密閉空間)ではウイルスが長時間空気中に留まりやすく、感染のリスクが高まります。定期的に換気を行い、空気を循環させましょう。こまめな清掃により空間を清潔に保つことも大切です。

⑤体調がすぐれない場合はすぐに報告

風邪の症状(発熱や咳)や強いだるさ、息苦しさがある場合は、各避難所の職員にご相談ください。
また、避難後は定期的に体温をチェックするなど、ご自身での体調管理にご協力をお願いします。

第9回ふじみ野市 総合防災訓練

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響をふまえ、全市民参加型ではなく、市職員および防災関係機関のみで実施します。

※各避難所での全市民参加型の訓練は行いません。

日時 11月8日(日) 午前8時30分～正午

協力要請機関 陸上自衛隊、東入間警察署、入間東部地区事務組合消防本部など

